

2024 年度

明星大学大学院教育学研究科教育学専攻（通信教育課程）

博士前期課程第 1 期入学試験

「小論文」

共通問題 （教育学全般）

学校教育と家庭教育のそれぞれの特徴と相互の関係について、研究、教育実践、法令・制度や行政等のうちあなたが得意とする分野に根拠を求めながら論じなさい。

選択問題

問題 A～L のうち 1 問を選択し、答えなさい。

【問題 A （歴史・理論）】

「探究的な学習」に関する日本教育史の事例を 1 つ挙げ、今日的な意義を論じなさい。

【問題 B （情報教育）】

個別最適な学びと協働的な学びの実現において、「指導の個別化」を目指した教育実践に ICT ができる可能性を 2 つ以上説明しなさい。

【問題 C （教育社会学）】

教育政策における「エビデンス」について、具体例を挙げて社会学的に論じなさい。

【問題 D （教育心理学）】

子どもの発達には、様々な要因が影響を与えることが指摘されています。子どもの発達を規定する要因について、具体例を挙げて説明しなさい。

【問題 E （教育行財政）】

2000 年代に入り、日本の教育分野でも地方分権改革が進められてきたが、この間の地方分権改革によって日本の地方教育行政にどのような変化が生じたか。関連する先行研究の知見を踏まえながら論じなさい。

【問題 F （児童家庭福祉）】

2022 年 12 月に 12 年ぶりに改訂された「生徒指導提要」では、「生徒指導の取組上の留意点」として「児童生徒の権利の理解」という項目が新設され、生徒指導を実践する上で、子どもの権利条約の 4 つの一般原則を理解しておくことが不可欠とされた。4 つの一般原則について、それぞれ説明するとともに、こども基本法第 1 条あるいは児童福祉法第 1 条と関連させながら、生徒指導提要に記載されたことの意義について、あなたの意見を述べなさい。

【問題 G （保育）】

近年、日本の幼保小連携教育の中で課題となっているのは、小 1 プロブレムという一部の子どもたちへの対応の問題ではなく、保育者・教師の側の課題（保育者・教師が考えて対応すべき課題）であるとも言われている。実際にはどのようなことが課題となっていると考えられるのかについて、何点かに分けて論じなさい。

【問題 H （音楽教育）】

コダーイ・メソッドによる音楽教育では、幼児期から移動ド唱法による階名唱の指導が行われる。このことについて①早い時期から教育を開始すること、②階名唱、つまりドレミを歌う指導が行われること、③移動ド唱法による指導が行われること、という 3 点に分けて、あなたの考えを述べなさい。

【問題 I （児童文化）】

明治期に成立した、はじめての近代児童文学の作品について具体的に説明しなさい。

【問題 J (障害児者の学習・発達支援)】

令和3年「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議」が文部科学省初等中等教育局長の下に設置され議論が進められてきている。

その中で日本が「ギフテッド」と呼ばず「特異な才能のある児童生徒」と表現した背景について論じ、論点の一つである「2E」について説明せよ。

【問題 K (小児保健)】

インクルーシブ教育における課題とその課題解決のために有効と思われる具体例を挙げて、述べなさい。

【問題 L (障害児者自立支援)】

中教審第228号において「特別支援教育を担う教師の専門性向上」がうたわれているが、その背景理由について述べるとともに、指摘されている三点（①全ての教師に求められる特別支援教育に関する専門性、②特別支援学級、通級による指導を担当する教師に求められる特別支援教育に関する専門性、③特別支援学校の教師に求められる専門性）の中から一つを選択し、具体的内容を説明せよ。

2024 年度

明星大学大学院教育学研究科教育学専攻（通信教育課程）

博士前期課程第 2 期入学試験

「小論文」

共通問題（教育学全般）

令和 5 年 6 月 16 日に閣議決定された教育振興基本計画では、「ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。」と定義した上で、「教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められる。」と提案されている。

これからの教育において、ウェルビーイングの向上を具現化する場合のポイントや配慮事項について、理由や具体例を添えてあなたの考えを述べなさい。

選択問題

問題 A～K のうち 1 問を選択し、答えなさい。

【問題 A （情報教育）】

個別最適な学びと協働的な学びの実現において、「学習の個性化」を目指した教育実践に ICT ができる可能性を 2 つ以上説明しなさい。

【問題 B （教育社会学）】

教師・家族・学歴のどれかについて、教育社会学の観点から論じなさい。

【問題 C （教育心理学）】

子どもの認知は、生後にいくつかの発達段階を経て発達していきます。子どもの認知はどのように発達していくのかについて、心理学理論に基づいて説明しなさい。

【問題 D （教育行財政）】

教員の職務満足度を維持・向上するために求められる教育行政・学校経営上の取り組みについて、関連する先行研究の知見を踏まえながら論じなさい。

【問題 E （児童家庭福祉）】

2016（平成 28）年改正児童福祉法の理念のもと、「家庭養育優先原則」の徹底と、子どもの最善の利益を実現するため、都道府県社会的養育推進計画の策定が行われ、里親等委託率や特別養子縁組成立件数などの数値目標や、里親支援体制の強化や推進のための取り組み、研修の実施など、さまざまに取り組まれている。「家庭養育優先原則」についての、あなたの意見を述べなさい。

【問題 F (保育)】

保育における児童文化財は、子どもの想像力や発想力を高め、言葉を豊かにし、様々な場面での思考力を育てる可能性があると言われている。児童文化財の中から一つ取り上げて、保育の中でどのように活用することで、どのような実践を展開できると考えられるか、またその際、配慮すること、注意することは何か、具体的場면을想定して論じなさい。

【問題 G (音楽教育)】

幼稚園教育要領「表現」のねらいに次の様な記述がある。

「(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。」

子どもたちが保育の中で行う音楽を含む活動のうち、このねらいを達成することのできる活動と、達成することが難しい活動の、それぞれの例を挙げ、これらについて自分の考えるところを述べなさい。

【問題 H (児童文化)】

日本の近代児童文学における「童心主義」という理念について具体的に説明しなさい。

【問題 I (障害児者の学習・発達支援)】

令和4年12月、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課は10年ぶりに「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」を発表した。

その結果、小中学校で「学習面または行動面で著しい困難を示す」児童生徒の割合は8.8%という結果が報告された。平成24年の同調査における同項目の数値は6.5%であったが、この数値の変化の意味をどうとらえるべきか、持論を述べよ。

【問題 J （小児保健）】

通常学級と特別支援学級のある学校の教員にとって、インクルーシブ教育を実現するとはどのようなことが大切だと思うか、あなたの考えを述べなさい。

【問題 K （障害児者自立支援）】

特別なニーズを要する児童生徒の個別の指導計画を作成する上で、アセスメントが必要な理由及びその種類や実際の指導・支援への生かし方などに関し、具体的に述べよ。

2024 年度

明星大学大学院教育学研究科教育学専攻（通信教育課程）

博士後期課程入学試験問題

「小論文」

問題 1～9 のうち 2 問を選択し、答えなさい。

【問題 1 （情報教育）】

個別最適な学びと協働的な学びの実現における情報活用能力の重要性について、社会構成主義の観点から考察し、説明しなさい。

【問題 2 （教育社会学）】

教育社会学における量的研究・質的研究の先行研究の具体例をそれぞれ挙げよ。そして、量的研究・質的研究の意義と課題、および使い分けについて論じなさい。

【問題 3 （教育心理学）】

学習障害児だけでなく、定型発達児も、教科学習において様々な困難を示すことが指摘されている。学習上のつまずきに関連する認知的特性に焦点を当て、なぜ子どもはつまずくのか、つまずいている子どもに対してどのような指導をすればよいのかについて、あなたの考えを述べなさい。

【問題 4 （児童家庭福祉）】

子ども・子育て支援法に規定される「子どものための現金給付」について説明するとともに、子育て支援策における現金給付と現物給付の位置づけについて、あなたの意見を述べなさい。

【問題 5 (保育)】

日本の保育所・幼稚園・認定こども園等の保育施設においては、様々な困難を抱えた子どもが在籍していると考えられる。考えられる困難について具体的に一つ想定し、どのような困難を抱えた子どもにどのようにアプローチし、どのような方法で関わっていくことが必要だと考えられるかについて、論じなさい。その際、困難が想定される背景や、社会的課題等についても説明を加えなさい。

【問題 6 (音楽教育)】

音楽教育における「技術（テクニク）を高めること」の必要性和、問題点について述べよ。

【問題 7 (児童文化)】

宮沢賢治の作品「水仙月の四日」について作品の成立状況を説明し、さらに作品分析をなさい。

【問題 8 (小児保健)】

文部科学省の特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について（通知）「特別支援学級において特別の教育課程を編成しているにもかかわらず、自立活動の時間が設けられていない・個々の児童生徒の状況を踏まえずに、特別支援学級では自立活動に加えて算数（数学）や国語の指導のみを行い、それ以外は通常の学級で学ぶといった、機械的かつ画一的な教育課程の編成が行われている」と指摘されている。このことについて、あなたの考えを述べなさい。

【問題 9 (障害児者自立支援)】

文部科学省は「障害者の生涯学習の推進について」の中で、障害のある方々が、学校卒業後も生涯を通じて教育や文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことができるように、(1) 学びの支援、(2) 福祉、保健、医療、労働等の関係部局と連携した進学・就職を含む切れ目ない支援体制の整備、(3) 障害のある子供の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する特別支援教育、(4) 障害者スポーツや障害者の文化芸術活動の振興等に取り組んでいる。

(1) ～ (4) の中から自身が博士課程で取り組むテーマと最も関連する事項を選択し、現状の課題と今後の展望に関して述べよ。

2024 年度
明星大学大学院教育学研究科教育学専攻（通信教育課程）
博士後期課程入学試験問題
「外国語（英語）」

以下の文章は、Geroge. Herbert. Mead, *Mind, Self and Society* の一節「*Play, the Game, and the Generalized Other*」の一部です。問題1～5に応えなさい。

問題文の公開はしていません。

Mead, G.H. *Mind, Self, and Society*. University of Chicago Press: Chicago.1934

問題1. 下線部①“ We were speaking of the social conditions under which the self arises as an object ”は、どのような観点から述べられたものか、日本語で説明しなさい。

問題2. 下線部②の全文を日本語に翻訳しなさい。

問題3. 下線部③“ a lack of organization at this period in the child’s experience ”で示される具体を英文のまま抜き書きしなさい。

問題4. 下線部④“ The fundamental difference between the game and play ”で示される game と play の違いについて、日本語で説明しなさい。

問題5. 下線部⑤“ the generalized other ”について、具体例を2つ挙げ、日本語で説明しなさい。